



ミニ企画展『皆野の城Ⅰ～竜ヶ谷城～』の開催

皆野町教育委員会では、秩父郡に30以上あるとされる城から、県選定重要遺跡に指定されている竜ヶ谷城を取り上げたミニ企画展『皆野の城Ⅰ～竜ヶ谷城～』を開催します。

展示では、縄張り図や写真をもとに、山城の構造や竜ヶ谷城の城を守る工夫を読み解くとともに、古文書を通じて竜ヶ谷城と周辺の歴史をたどります。

◎ ミニ企画展『皆野の城Ⅰ～竜ヶ谷城～』

(1) 期 間 : 令和5年9月4日(月)～25日(月)

※ 土日、祝日を除く

(2) 時 間 : 8時30分～17時15分

(3) 会 場 : 皆野町役場1階 庁舎内ロビー

大字皆野1420番地1 秩父鉄道「皆野駅」徒歩7分

(4) 入場料 : 無料

◎ 背景

竜ヶ谷城はこれまでの調査によって、曲輪24、堀26、堀切4、土塁13が見つかり、秩父郡の中でも遺構が良好な状態で残っている山城です。北条氏邦が治める鉢形領の城として、上杉氏の関東侵攻や武田氏の秩父侵攻という、戦国期秩父の大きな出来事にも関わりました。

現在、竜ヶ谷城の一部はハイキングコースとなっています。本展を機に、多くの方々に竜ヶ谷城を訪れていただき、約450年前の戦国期の痕跡が生活のすぐ身近に残されていることを感じていただきたいと考え、本展を企画しました。

今後町教委では、竜ヶ谷城と同じく後北条氏の山城で、発掘調査を経て現在は失われた高松城を「皆野の城Ⅱ」として取り上げる予定です。発掘調査では、当時使っていた日用品や食料、武具などが出土し、竜ヶ谷城とは異なる角度から戦国期の様相を伝えます。

【問い合わせ】

教育委員会事務局 社会教育担当 望月

電話 : 0494-62-4563 FAX : 0494-62-4571

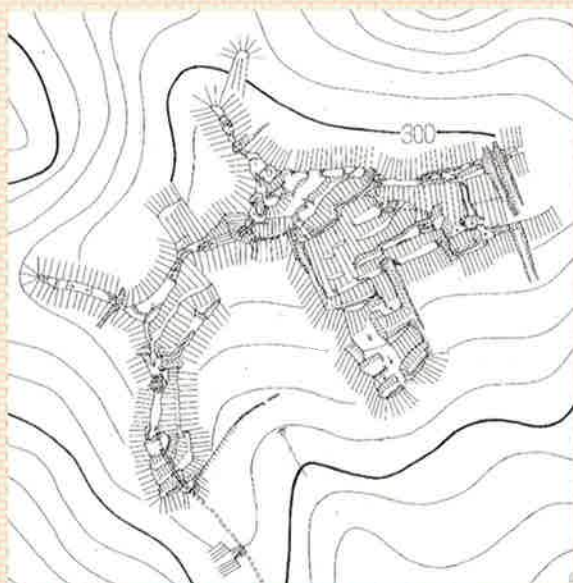
ミニ
企画展

皆野の城Ⅰ

竜ヶ谷城



竜ヶ谷城のある山。千馬山、龍界山、要害山と称される



竜ヶ谷城の縄張り図

戦国期鉢形領を支
えた山城の構造と
その歴史

期間 令和 5 年 9 月 4 日 (月) ~ 25 日 (月)

※ 土日、祝日を除く

時間 8 時 30 分 ~ 17 時 15 分

場所 皆野町役場 1 階 庁舎内ロビー

入場無料

主催・問い合わせ
皆野町教育委員会

TEL : 0494-62-4563

※企画展の内容はデジタルミュージアムにも掲載します。

<https://www.town.minano.saitama.jp/haikunomachi/>

会場地図

*秩父鉄道「皆野駅」下車
徒歩7分



上杉と武田、両雄の侵攻を耐え抜いた山城

本展は、皆野町にある山城から、埼玉県選定重要遺跡に指定されている竜ヶ谷城を紹介します。

同城は、山頂の本曲輪を中心に、曲輪や堀切、土塁、石積などが良好な状態で残ります。北条氏邦の鉢形領を支えたこの山城は上杉謙信の関東侵攻に伴う「秩父一乱」や、武田信玄の秩父侵攻を経て、鉢形落城後に廢城になったとされています。

第1章 竜ヶ谷城から読み解く山城

竜ヶ谷城の縄張り図や写真をもとに、山城を構成する施設や、竜ヶ谷城の城を守る工夫を解説します。

第2章 竜ヶ谷城をめぐる出来事

永祿から元龜年間に生じた、上杉氏の関東侵攻と、武田氏の秩父侵攻について、古文書をもとに紹介。千馬山（＝竜ヶ谷城）の名がある史料もあります。

第3章 どうする？秩父の武士

古文書をもとに、戦国期秩父の武士のリアルを追います。

◎ 竜ヶ谷城とその周辺

竜ヶ谷城がある標高約321mの山は、要害山、龍界山、千馬山と称される通り、三沢川と田野沢川に囲まれた要害の地です。周辺を見ると、三沢川右岸には妙音寺跡、北尾根を下った先には、後北条氏と武田氏の戦いに由来する「下田野あんどんまち」や、用土氏館跡があったと伝わる場所があります。南側には長福寺五輪塔や、用土氏一族の寺と伝わる正光寺が現在も残ります。



※ 電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成。



城の中心、本曲輪



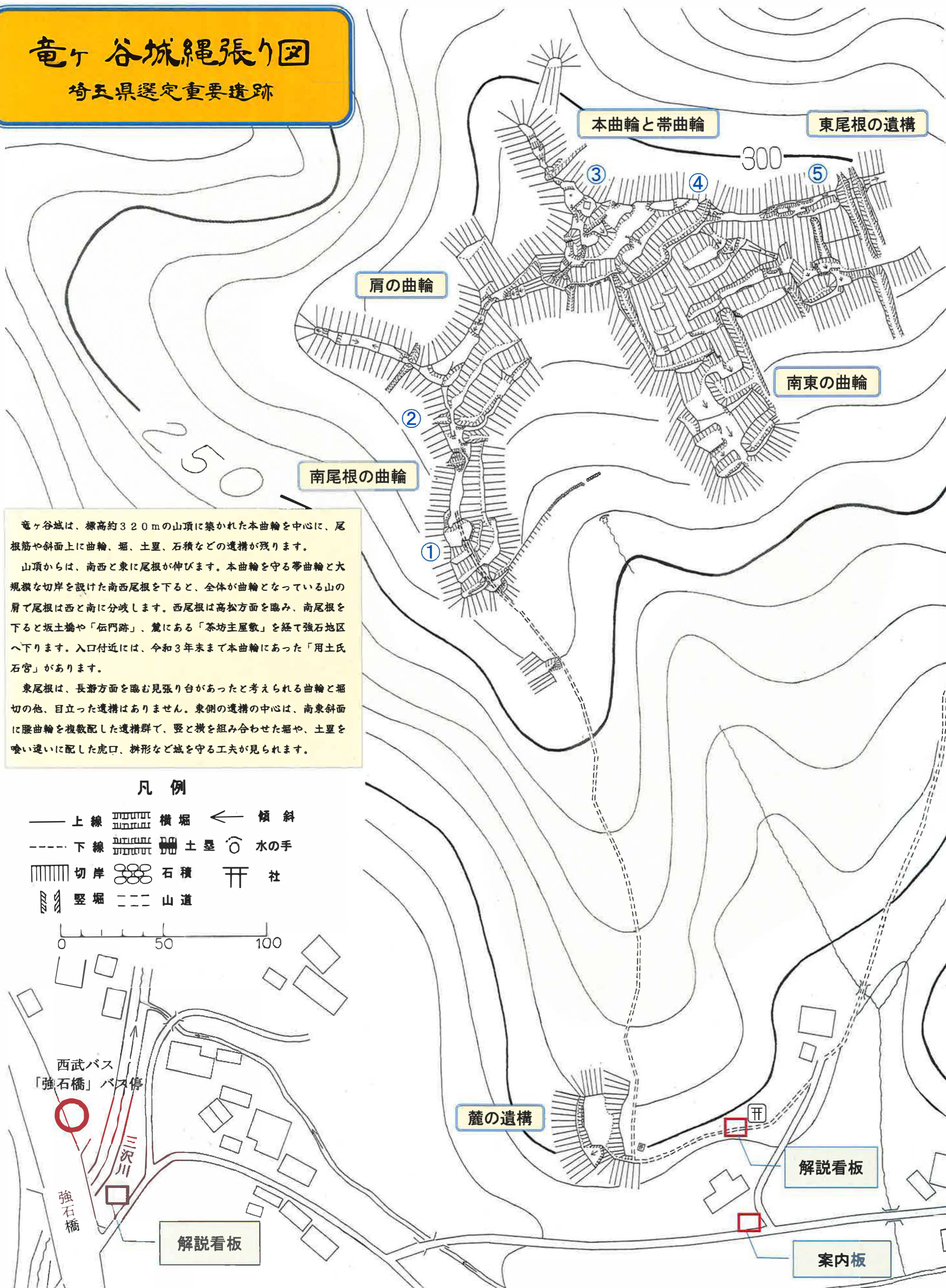
尾根を切断した堀切



石積を伴う土塁

竜ヶ谷城縄張り図

埼玉県選定重要遺跡



竜ヶ谷城は、標高約320mの山頂に築かれた本曲輪を中心に、尾根筋や斜面上に曲輪、堀、土塁、石積などの遺構が残ります。

山頂からは、南西と東に尾根が伸びます。本曲輪を守る帯曲輪と大規模な切岸を設けた南西尾根を下ると、全体が曲輪となっている山の肩で尾根は西と南に分岐します。西尾根は高松方面を臨み、南尾根を下ると坂土橋や「伝門跡」、麓にある「茶坊主屋敷」を経て強石地区へ下ります。入口付近には、令和3年末まで本曲輪にあった「用土氏石宮」があります。

東尾根は、長瀬方面を臨む見張り台があったと考えられる曲輪と堀切の他、目立った遺構はありません。東側の遺構の中心は、南東斜面に腰曲輪を複数配した遺構群で、竪と横を組み合わせた堀や、土塁を喰い違いに配した虎口、枡形など城を守る工夫が見られます。

凡例

- 上線 横堀 ← 傾斜
- 下線 土塁 水の手
- ||||| 切岸 石積 社
- ||||| 竪堀 山道

0 50 100

西武バス
「強石橋」バス停

強石橋

解説看板

麓の遺構

解説看板

案内板

※ 注意

- ・城跡の多くは個人の所有地です。見学に際しては、マナーを守った行動を心がけましょう。
- ・見学の際は、野外活動に適した服を着用し、夏の熱中症や冬の寒さ対策をとってください。
- ・クマ、イノシシ、マムシ、その他虫や植物に気を付けましょう。
- ・遭難事故は低山でも発生します。地形図やGPS、方位磁針を活用してください。
- ・城跡は文化財です。後世に残すため、大切に扱ってください。

【発行・編集】 皆野町教育委員会 令和5年8月

【縄張り図】 武蔵城郭研究会作成の縄張り図に、皆野町教育委員会の一部加筆。

◆ 問い合わせ

皆野町教育委員会 社会教育担当

〒369-1412 埼玉県秩父郡皆野町大字皆野1423番地

TEL: 0494-62-4563

URL <http://www.town.minano.saitama.jp/>

◎竜ヶ谷城の見どころと歴史



①伝門跡

門があったと伝わる曲輪。同曲輪から、尾根上とは別に斜面を造成した腰曲輪が坂土橋手前まで続く。



②坂土橋と横堀

南尾根の防備の中心。帯曲輪直下に設けた最大高5.0mの横堀、縦堀、削り残された尾根にあたる坂土橋などから構成される。



③本曲輪と帯曲輪

城の中心にあたるのが山頂の本曲輪。周囲は出曲輪や帯曲輪で嚴重に守られ、西は切岸、東は横堀で区画される。



④横堀と堀切

東、南東の遺構と本曲輪を区画する横堀で最大高3.6m。堀底は箱堀で、通路も兼ねていた可能性が高い。



⑤東尾根の堀切

岩盤層を切り崩して尾根を分断した堀切で、2条連続する。最大高1.8m。斜面に設けた縦堀と一体となっている点が特徴。これより東側に遺構は確認されない。



◎下田野あんどんまち

信玄による秩父侵攻後の元龜3年、鉢形衆と武田勢の戦いで亡くなった人々を慰霊するために始まったとされる行事。毎年3月に開催される。



◎下田野西福寺跡

用土氏ゆかりの寺といい、江戸時代にあんどんまちの灯が燃え移って焼失したと伝わる。境内に光明真言塔（町指定有形文化財）がある。

竜ヶ谷城は、戦国末期に関東一円を支配した後北条氏の山城です。城の構造と特徴が花園城（寄居町）や天神山城（長瀬町）と似ていることから、鉢形城主・北条氏邦が婿入りした藤田氏によって築城され、後北条氏の手で整備されたと考えられます。

高松筋や館澤筋など、下野や信濃への道も交わる秩父盆地入口に位置する竜ヶ谷城は、他の山城や岩とともに周辺監視や情報伝達、事態対応にあたりました。

* * *

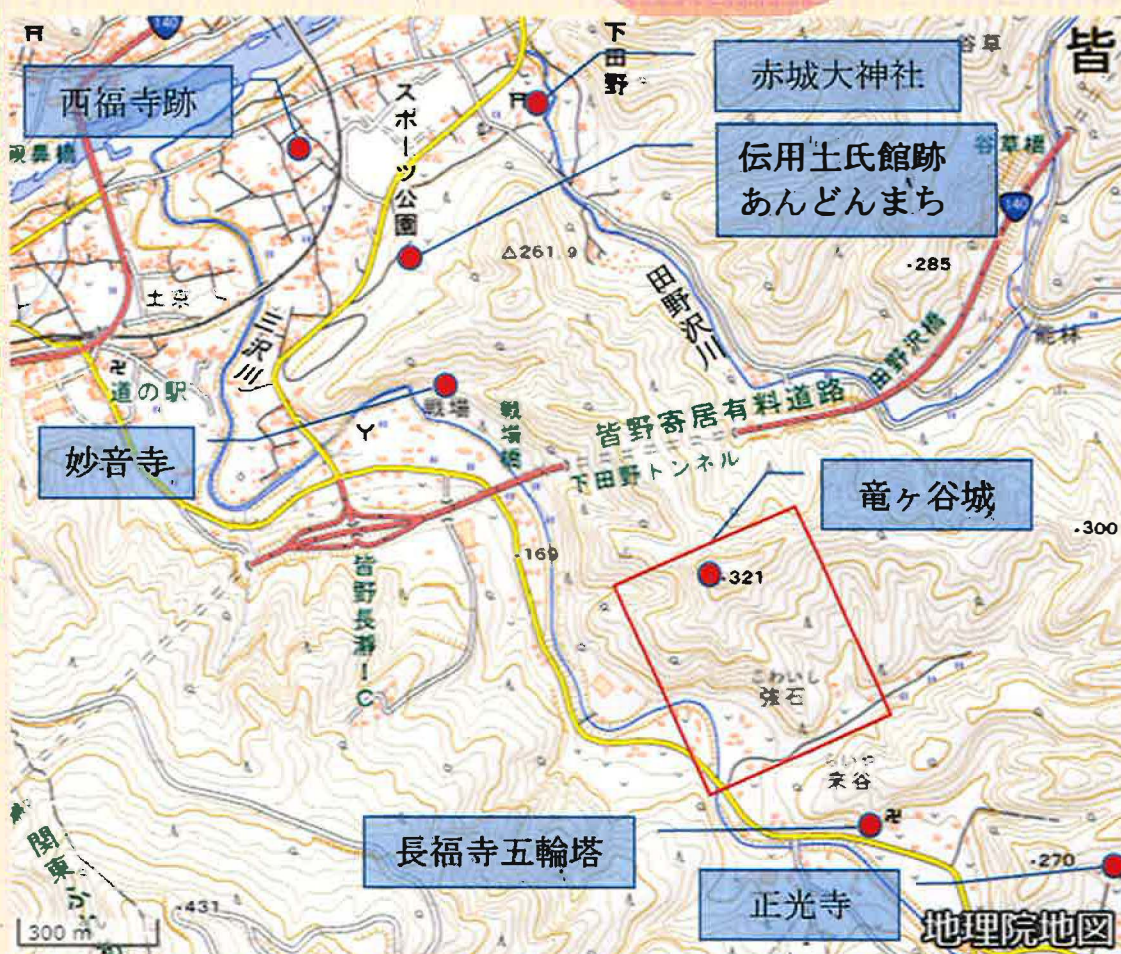
氏邦の治める鉢形領は、越後上杉氏による侵入をたびたび受け、甲相駿同盟決裂後は甲斐武田氏との軍事的緊張下に置かれました。

永禄3年（1560年）から翌4年の上杉氏による関東侵攻では、竜ヶ谷城は、後北条氏の攻勢で降伏した高松城の人質を預かる場として古文書に名を残します。

永禄12年（1569年）と元龜2年（1571年）には武田信玄が秩父に侵攻。特に後者では「人民断絶」といわれる程の被害が生じたとみられ、竜ヶ谷城周辺でも戦いがあったとされます。

天正18年（1590）の豊臣秀吉による小田原攻めによって鉢形城が落城したことに伴い、竜ヶ谷城も廃城になったと考えられます。

◎竜ヶ谷城の周辺



※ 電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

○交通手段とアクセス

- ・秩父鉄道「秩父駅」または「皆野駅」から西武バス三沢線「強石橋」下車
- ・道の駅「みな」から徒歩30分（強石橋まで）

- ※ 竜ヶ谷城付近に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- ※ 時刻表等は、交通各社のHP等をご覧ください。